

資源循環型施設建設に関する説明会 概要 【秋和自治会】

1 開催概要

開催日時	令和6年4月22日（月）19：00～21：01	
開催場所	秋和児童センター	
出席者	住 民	31名（秋和地区住民31名）
	行 政	土屋広域連合長、小相澤上田市副市長、他関係職員13名
	報道関係	4社

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	環境影響評価（景観）について	景観についての予測で、古舟橋からみたフォトモンタージュ写真はあるが、秋和踏切からみたフォトモンタージュ写真はないのか。	秋和踏切から見たフォトモンタージュ写真は作成していない。 今後作成し、本説明会の会議概要を回覧する際に追加で添付させていただく。※P4 参照
2	環境影響評価（土壌汚染）について	煙突排ガスに伴う土壌汚染で、最も影響が少ないと思われる場所での経過観測の要望があるが、どういう地点を選ぶつもりか。	住民の皆様の「安心」につながる地点について、御意見をお聞きするなかで、周辺環境モニタリング（経過観測）を実施する地点を決めていきたい。
3	環境影響評価（実施方法）について	環境影響評価の調査・予測・評価や環境保全措置の検討は、どのように実施したのか。	長野県の環境影響評価に関する条例、規則及び技術指針で定められた方法により実施し、広域連合として実施可能な環境保全措置を検討している。専門的な業務のため、民間の事業者へ委託している。
4	環境影響評価（検証）について	予測、評価や保全措置が適切であったか、検証や説明をすることが必要ではないか。	長野県環境影響評価技術委員会で専門委員の意見をいただく。大きな修正等があれば説明会等でお知らせしたい。

No	項目	質問・意見等	回答
5	環境影響評価 (事後調査)について	地下水の現状調査は5地点で調査しているのに、施設稼働後の事後調査は2地点のみの調査となっているのはなぜか。	条例に基づき実施する事後調査は、上流と下流の2地点を1年のみ測定する予定。 これとは別に実施する、地元の皆様と共同で行う周辺環境モニタリングでは、地元の皆様から要望があった箇所で継続的に調査していきたい。
6		事後調査で土壌汚染を実施しないのはなぜか。	土壌については長期的な土壌への蓄積の調査が必要となるため、期間が限定される事後調査では実施しない。 これとは別に地元の皆様と長期的に実施する周辺環境モニタリングで土壌調査を実施してまいりたい。
7	地域のまちづくり (周辺整備事業)について	まちづくりの基本計画として、アクアプラザの移転と、公園の設置だけでは充分でないと考えるが、どうか。	まちづくり全体の対応については、今後、地元自治会の皆様の身近な要望等もしっかり拾い上げ、地域の課題解決やイメージアップにつなげていきたい。
8		他市町村の成功事例(ラーラ松本等)を研究していただき、現在行政が考えているより強い企画を出していただきたい。	様々な施設等を研究させていただき、地域にどういった役割を果たせるかしっかりと勉強させていただき、今後の協議に活かしてまいりたい。
9	地域のまちづくり (地域要望)について	地域の要望に対してどのようなスケジュール感で話し合いを行っていくのか。その対応と環境影響評価の結果を併せて、地域の意思が形成されている。	対策連絡会とも協議し、準備が整った自治会、団体から6-7月から開始し、市を挙げて取り組んでまいりたい。
10		秋和神畑線と土地区画整理事業の関係が現在どの程度まで進展しているか。	土地区画整理事業の都市計画決定が残っている中で接道や排水等の課題が未解決であり、県にも相談し、可能な方法や技術的な研究を進めている。地元の皆様にもお話をお聞きしてまいりたい。

No	項目	質問・意見等	回答
11	地域のまちづくり (地域要望)について	この地域の資源を精査し、この地域全体をどのようにしていくかを考えるのがまちづくり。今後も協議を続けてほしい。	積極的に話し合い、まちづくりに関わっていきたいと考えているので、よろしく願いしたい。 (上田市副市長)
12	今後の進め方について	環境影響評価の手続きが完了すれば、今後は建設に向けて進んでいくのか。また、今後、地元地域の住民に対して、どのように伝えていくのか。	令和6年度の環境影響評価完了を目途に建設候補地から建設地として決定してまいりたい。 まちづくりについても協議を進め、別途、説明会を開催して建設について、お伝えしてまいりたい。(土屋広域連合長)
13		環境影響評価の結果に問題がなかったから、建設を開始するのは全く別の話。まちづくりについて、地元住民に伝わっておらず、周辺整備のワークショップ実施のみで、既成事実とするのではなく、地元の考えや要望をしっかりとくみ取って行って欲しい。	地元の皆様とまちづくりについても、しっかりと皆様の御意見をいただき、引き続き話し合いを進めていく。(土屋広域連合長) 周辺整備だけでなく、地域の生活に根差した課題、要望についても話し合い、率直に話し合いを進めてまいりたい。(事務局)
14		資源循環型施設の建設について、実施設計の段階で、景観や搬入車の出入道路など、地元への説明、協議についてはどうやっていくのか。	DBO を基本として考えているが、要件、機能を示す要求水準書を作っていく段階で、地元の皆様の御意見をお聞きしてまいりたい。
15	その他 (事業計画)	100年に一度、1000年に一度の水害というのはどういったものを想定しているのか。	100年に一度の降雨は、施設周辺が0.5m～1.0m浸水する想定、1000年に一度の降雨は、千曲川右岸では塩尻地区や河岸段丘下部の地区が5m～10mの大規模な浸水となる想定としている。
16	次期施設の建設地について	清浄園用地は、し尿処理施設と資源循環型施設を通算すると、迷惑施設の立地が100年間となる。 次の施設は、100年を超えて、この地域に建設しないと確約して欲しい。	この地域で歴史的に先人の皆様にも様々な施設を受け入れていただき感謝申し上げる。 今回は、清浄園用地への建設を進めているが、次期施設についてはこの地域には建設しない。 (土屋広域連合長)

【質問 No.1 に対する回答】 秋和踏切付近からの景観変化（フォトモンタージュ）

【上段：現況】



【下段：資源循環型施設建設後】

